

VI 検討体制及び検討記録

VI 検討体制及び検討記録

1. 検討委員会

(1) 検討委員会の体制

小杉駅周辺地区小学校新設基本計画検討委員会検討体制

No	職	氏名
1	まちづくり局 小杉駅周辺総合整備推進室 担当課長	諸橋 豊
2	まちづくり局 施設整備部 担当課長（専門）	降屋 力
3	まちづくり局 施設整備部 担当課長（公共建築担当）	内野 俊之
4	中原区役所 担当課長（危機管理担当）	村田 俊一
5	中原区役所 まちづくり推進部 企画課長	今井 重忠
6	中原区役所 まちづくり推進部 地域振興課長	日向 幸雄
7	教育委員会 総務部 企画課長	野本 宏一
8	教育委員会 総務部 企画課 担当課長	田中 道人
9	教育委員会 教育環境整備推進室 建築・保全調整担当課長	宇留間 雅彦
10	教育委員会 教育環境整備推進室 学校整備プロジェクト推進 担当課長	鈴木 徹
11	教育委員会 学校教育部 指導課 担当課長	山田 英児
12	教育委員会 学校教育部 中原区・教育担当課長	佐藤 俊司
13	川崎市立新城小学校長（小学校長会推薦）	川崎 等
14	川崎市立上丸子小学校長	岩間 章
15	川崎市立西丸子小学校長	武山 豊彦
16	川崎市立中原中学校長（中学校長会推薦）	伊藤 民子
17	中原区町内会連絡協議会 副会長（丸子地区）	尾木 孫三郎
18	中原区町内会連絡協議会 副会長（小杉地区）	大谷 忠司
19	町内会長（小杉町2丁目町内会）	伊藤 巖
20	中原区PTA協議会 会長	大下 由美子
21	西丸子小学校PTA 会長	小林 章吾
22	中原中学校区 地域教育会議 副議長	芳賀 誠

事務局

教育委員会 教育環境整備推進室 学校整備プロジェクト推進 担当係長	細見 勝典
教育委員会 教育環境整備推進室 学校整備プロジェクト推進	南 壮彦
教育委員会 総務部 教育改革推進担当 指導主事	辰口 直美
教育委員会 学校教育部 指導課 指導主事	川村 雅昭
教育委員会 学校教育部 中原区・教育担当 指導主事	山川 佳美
教育委員会 総合教育センター カリキュラムセンター 指導主事	藤中 大洋

計画指導

湯澤建築設計研究所／関東学院大学建築・環境学部長・教授	湯澤 正信
-----------------------------	-------

(2) 検討の過程

小杉駅周辺地区小学校新設基本計画は下記の4回の検討委員会にて議論された。

■第1回

1. 日時：2013年12月3日（火）15：00～17：00
2. 場所：日本医科大学新丸子校舎会議室
3. 主な議題：
小杉駅周辺地区の開発動向について、計画の背景、
近隣小中学校の状況・中原区役所事業、新設小学校の基本コンセプト、今後の検討事項、
今後のスケジュール

■第2回

1. 日時：2014年1月28日（火）9：40～11：50
2. 場所：川崎市立御幸小学校
3. 主な議題：
学校づくりの基本理念について、普通教室について、特別教室について、
運動スペースについて、先進事例視察

■第3回

1. 日時：2014年2月18日（火）14：00～16：00
2. 場所：中原区役所 501 会議室
3. 主な議題：
小杉駅北側地区の動向について、防災機能について、歩道状空地について、
施設開放について、環境配慮機能について、必要諸室について

■第4回

1. 日時：2014年3月25日（火）14：30～16：30
2. 場所：中原市民館 第3・第4会議室（合併）
3. 主な議題：
基本理念・基本コンセプトについて、特別支援教室について、管理諸室について、
地域連携について、配置・ゾーニング計画（案）について、報告書（案）について

(3) 検討の記録

①基本コンセプトについて

全体

- ・基本コンセプトは非常に素晴らしい。

地域コミュニティ

- ・基本コンセプト②「地域コミュニティの拠点となる学校」では、学校が地域にどのように関わっていくかということ、また、③「安心で安全な学校」では、学校が地域の避難・救援の拠点となるというところについて、非常に関心がある。今後コンセプトの内容についてご検討頂けるということで、地域の要望をお願いしたい。
- ・基本コンセプト②「地域コミュニティの拠点となる学校」が地域にとってポイントとなると思う。検討事項の(2)「コミュニティ施設としての学校の役割」の中に、展示・集会・イベントとあるが、これが実現できればとても良いと思う。
- ・この地区は地域と学校の連携が進んでいる。地域住民も学校への関心が高く、地域開放についても、地域の方が率先して活動している。また、子ども文化センターを中心に3校の生徒と一緒に行動することもある。新校でも、地域との関わりをより一層密にして良い関係を築いて頂きたい。
- ・「地域コミュニティの拠点となる学校」というコンセプトからも、災害時だけでなく、ぜひ普段から地域と連携できるような計画としてほしい。

防音

- ・気になるのは、PTA活動の中でよく課題になる騒音の問題である。基本コンセプト①「子どもが豊かに学び表現できる学校」の(3)「子どもたちの歌声や演奏が響く明るい学校」というところは非常に大切ではあるが、地域への騒音に対しては可能な限り配慮をして頂きたい。同時に、子どもが育つのに必要な音に対しては地域の方々のご理解を頂けると有りがたい。
- ・中原区では体育の授業でも窓を開けられない状況であるため、防音については配慮頂きたい。
- ・音に対しては非常に難しいところがあるが、協力していくよう地域として考える。
- ・中原平和公園の音楽堂に使用制限がかかっているのが勿体ない。
- ・1年に1、2度、近隣住民を招いてブラスバンドの演奏会などを行い、練習の成果を発信するなどすれば、地域の見方も変わるのではないかと。

その他

- ・新しい学校だからといって、奇抜すぎる建物は避けて頂きたい。他の小学校とあまりにも差があると、新しい学校へ通う子どもは良いが、古い学校に通う子どもは落ち込んでしまう。
- ・今回の学校規模(学区の設定や人数)からして計画地の面積は十分なのか。
- ・西側の道路の新日石のあたりは拡幅が予定されているが、新校の付近では拡幅は難しいと思うので、建物の配置計画でセットバックするなどして工夫頂けると良い。
- ・安心で安全な学校ということが重要である。施設を安全につくるから子供たちが安心して過ごせる。特別支援教室だけでなく、普通教室の中にも支援を必要な子どもがいる。まずは安全を重視した施設づくりを行っていただきたい。
- ・基本コンセプトには賛成である。私は保護者の立場であり、欲を言い出したらきりが無いが、現場の先生方の意見をよく聞いて施設づくりを行ってほしい。

②普通教室について

全体

- ・このイメージ図のような教室があったら、子どもたちは楽しくのびのびと学べると思う。あとは、それぞれの学年ユニットがどのように配置されるかが気になる点。また先生方も利用されるので、先生方の御意見もたくさん盛り込まれたらよい。
- ・御幸小学校の見学では良いものを見せていただいた。我々の時代は集合教育・集団教育であったが、今回オープンスクールという形で、子どもたちの個性に合わせる教育ができる点はとても良いと思う。学校の「学」を「楽」に変えるべきなのかなと感じた。

オープンスペース、オープンスクール

- ・子どもたちの活動スペースが多いのが一番だと思うので、そういう意味でオープンスペースは良いと思う。
- ・御幸小学校を見て、良く出来ていると思った。オープンな教室は、我々からすると良いと思うが、教える側からすると使い勝手が悪い点も出てくるのではと感じた。
- ・御幸小学校の1年生のゾーンで、特別教室や階段室への出入りにより、一部の教室前が常に通路になってしまっている点が気になったので、その点が考慮されると良いと思う。

防音

- ・我々が学生時代過ごした学校とあまりにも違うので、防音に配慮すると言っても、どうなのかと感じる。音楽教室があっても、例えば鍵盤ハーモニカなどでは音楽室を使わないと思うので、その場合はかなり筒抜けになるのではないかな。
- ・前回も音についてお話しさせていただいたが、御幸小学校の見学の中で、音を吸収する材質もあると聞いたので、そのようなものを駆使すれば、音については、意外と問題にしくなくても良いのかなと感じた。

③特別教室について

- ・上丸子小学校の改築工事も、図書室とパソコン教室を組み合わせるなど、同じような考えで設計されている。考え方は良いと思う。
- ・1つのゾーンの中で様々な活動ができる計画なので、非常に使いやすいと思う。
- ・御幸小学校は、地域に開放する諸室の配置など、地域の人達にも配慮した設計で非常に興味した。今回も、そのようなコンセプトで設計して頂ければ地域としてはありがたい。
- ・子どもの数が増えて、特別教室を普通教室に転用している学校も一部あるので、このような充実した特別教室を維持してほしい。
- ・特別教室については、スペースや予算の事もあると思うが、ぜひこのようなイメージで計画してほしい。

④運動スペースについて

全体

- ・敷地の大きさが決まっている中で、校舎や運動スペースは今後どのように計画していくのか。
 - 学校運営上、1階に必要な諸室が多くなると思われるため、今後1階に必要なスペースの整理を行う中で、図示しているグラウンドと校舎の面積について検討する。その中で、活動スペースの事例にある様々な手法を活用しながら、全体の活動スペースを確保していきたい。
 - グラウンドの図は、必要な機能を今回の敷地に落とした場合のイメージであり、この資料のような形になるわけではない。今後の設計の中で、例えば、遊具スペースを建物の中や屋上に配置するなど、機能実現に向けた検討を行っていく。本日の資料が、今計画の配置を示すものではないことを御理解いただければと思う。

プールについて

- ・防災の観点からもプールは有用であると思う。
 - 前回の検討委員会の中で、「西丸子小では今年上丸子小改築の際にプールを活用して頂いた。新設校でも西丸子小の施設を活用頂ければと思う。」という御意見を頂いた。新校の敷地は今の西丸子小学校区の中にあり、開校してからも西丸子小と新校との交流が盛んになるような共同利用の可能性も含めて検討できると良いと思う。
- ・新校が今の西丸子小の学区の中にできるということで、プールなどの施設面の他1、2年生の生活科や3、4年生の社会科などの地域素材をはじめとした教材面でも、新校と色々と共有できると思う。西丸子小は敷地も広いので、新校ができない部分については西丸子小で補ったり、また新校には様々な学習活動が可能となるスペースができると思うのでそれを共有させて頂くなど、お互いの学校がどう共有化して補いながらやっていくか、これから時間をかけて検討していけたらと思う。

⑤防災機能について

全体

- ・新校は地域の避難所として非常に良いと思う。
- ・防災については、建物の耐震性だけでなく、インフラについても十分に検討頂きたい。水洗便所についてはよく問題となるので、浄化槽を設置したらよいのではないかと同時に、給水についても確保できるようにしてほしい。
- ・今回の敷地は主要幹線に近く駅から近い。また東京から多摩川を渡ってすぐなので、大災害が起こった時、帰宅困難者が来ることも想定される。非常に多様なことばかり欲張ってしまうと本来の学校の意味が失われるので、あまり欲張ってはいけないと思うが、バランスを保ちつつ、災害時における役割、防災機能を考えて頂きたい。
- ・センターストリートについて、開発区域範囲は歩道が広がって良いが、中原街道に続く150mくらいは既存の街になっていて詰まってしまう。また、多摩川の河川敷に緊急輸送道路が建設されているが、そこへのアクセスはどのように考えているのか。→センターストリートの拡幅は開発区域だけとなっている。これから中原街道や多摩川方面へ動線の確保については、都市計画とマスタープランで大きな方向性は出しているが、詳細はこれからである。
- ・今井中の避難所の会合の中で、過去の災害を参考に検討するが、あくまでも想定で、実際この場所に起きてみないとわからない。現段階で学校が対応する機能としては、この内容があれば十分だと思う。
- ・資料に「独立した運用が可能な教室エリア」とあるが、具体的にどのようなことか。→資料に示す配置であれば、アリーナを避難エリアとしてしっかりと区分することが可能である。校舎の1階を避難所機能として利用した場合でも、普通教室は2階以上であるため授業は行える。避難所運営はアリーナで行い、校務センターは、学校機能が再開した際にスムーズに本来の機能に戻れるよう、避難所支援という想定をしている。
- 岩手の大船渡で震災復興の仕事をしている中で聞いた話では、避難所となった学校で、住民が地域ごとに教室に分かれ避難生活をしてしまい、なかなか学校機能が再開できないという問題があったようだ。運用の問題もあるが、施設面では避難に供する部分との区分けをしっかりとつくる必要がある。
- ・資料に「児童生徒数、避難者数に応じた」とあるが、駅があるので帰宅難民の一時避難も予想されるが、その点補足でご説明をお願いしたい。
- 新校については一般の避難所機能を想定している。大西学園と駅北口のコンベンション機能で地域の方の一時的な避難場所の他、小杉駅からの帰宅困難者の受け入れを想定しており、これから整理を行っていく。
- ・急速な開発が進む中でも、災害時にスムーズに人や物が捌ける計画とすることが重要である。

日本医科大学との連携

- ・トリアージ機能を設ける際、子どもたちに精神的なダメージを与えないよう配慮頂きたい。
- ・トリアージの実際の運営は日本医科大学側で行っていくと考えてよいか。→大学側と協議しているところだが、運営は大学で行う方針である。
- ・小学校の機能検討の前提として、特にトリアージなどについては、救急車両の動線など周辺の交通関係をこれからどのように整備するかが重要。

⑥小杉駅北側地区の動向について

- ・東側の道路は拡幅されるのか。拡幅の理由を教えてください。
- 東側の道路は地区の幹線道路として計画されており、拡幅を行う予定。斜線部分が拡幅される部分であるが、南にいくほど拡幅が少ないのは、南側の街区が住宅地となっており、拡幅が難しいためである。この部分は、病院側のC街区を一方的に拡げるため、道路は東に曲がる形となる。また、北側の広場部分も拡幅される予定である。

⑦施設開放について

- ・行事をする時に体育館や校庭を利用することができるため、川崎市の制度として非常に良い。新校でも実現して頂きたい。私たち教育会議の企画で子どものためのコンサートを上丸子小の体育館で行ったが、200人の子どもたちが一緒に動き回って楽しむことができた。
- ・私たちの地域には、東住吉小学校という非常に広い学校がある。新校のグラウンドは広いスペースではないと思うので、できる範囲内で施設開放して頂ければと思う。また、どこの会館を借りるのにも結構な費用が掛かるのが問題。学校が気軽に借りられると良い。
- ・地域の方からは、学校活動以外の休日の校庭利用について音がうるさいというご意見を頂くことが多い。学校によっては、体育館の窓を夏でも開けられないこともあるので、その点配慮頂ければと思う。
- ・学校は地域施設の1つであり、京都などでは明治になってすぐ、お上のお金ではなく地域のお金で学校をつくり、学校の中に消防署や警察署や銀行があった。地域にとって中心的な施設を集めて学校としていた。学校が地域にとって必要な施設となり、色々な意味でコミュニティの中心となるような形が望ましく、また、双方にとってメリットがある形で考えていけると良い。

⑧歩道状空地について

- ・歩道状空地で花壇の設置とあるが、これは地域の方々の意見をよく踏まえて検討して頂きたい。
- ・学校が地域に溶け込むには非常に良い場所である。地域の方と一緒に考えていければよいと思う。

⑨環境配慮機能について

- ・設備の計画は全てできれば非常に素晴らしい。風が強い地域であるため、その点配慮して頂きたい。
- ・様々な手法はあるが、具体的に周辺の開発動向や地域性を検討した上で、効果的な手法を採用していく必要がある。太陽熱は高層建物の影響があると考えられる。
- ・環境配慮機能は、全て実現できれば良いが、費用対効果の点からも、取捨選択していく必要がある。
- ・ゼロエネルギーという流れもある中で、お金もかかるが、どれだけエネルギーを使わないものをつくっていくかが大切。また子どもたちに見せて環境意識を高めるという意味で学校は非常に重要な施設である。

⑩必要諸室について

- ・教育活動や学校運営上の観点から、学校教育本来の機能を十分に発揮するためには学級数が少なすぎると子どもたちが集団の中で触れ合ったり高め合うという機会が少なくなり、多すぎると施設面での制約があることから、本市では12学級から24学級、一時的な児童数の増加については30学級までを適正規模としている。18学級はその中間的な数字である。開発が進展して児童数増加が想定されるが、先日の検討委員会で多目的教室やオープンスペースを普通教室として利用できるの話があり、その場合30学級まで対応できるという事で、適正な設定ではないか。
- ・特別教室については、学校の敷地が広くない中で、コンパクトにまとまっている必要がある。また機能的で使いやすいことが重要なので、今回の機能ごとにまとまりのある計画は良い。それぞれのスペースをどのように配置していくかは、今後検討して頂けると良い。
- ・機能ごとにまとまっていて、子どもたちが多様な学習活動が可能になると思う。
- ・色々なまとまりをつくり、それぞれに特色をつくることで、学校を使う子ども・先生・地域のそれぞれが使いやすくなる。地域の人が経験を生かした教育を行い、学校と地域が連携することができれば、新校は先進的な学校になると思う。

⑪特別支援教室について

- ・職員室から色々な所が見渡せるという事が重要である。また、特別支援室に来る子どもは、必ずしも交流を必要とする子ばかりではない。個別指導室を仕切って利用できるという内容もあったが、子ども達が安心できる場もつくれるような自由度のある教室としてほしい。
- ・特別支援室のプランコは屋内では危険だと思うが設置する必要があるのか。

⑫管理諸室について

- ・十分に練られた内容であり、良いと思う。
- ・色々な学校を見ているが、このような形で連携がとれるのではないかと思う。

⑬地域連携について

- ・地域連携諸室には、外部の方も来られるのか。
→来られる。
- ・地域連携に関連する内容として、2丁目や陣屋町では、老人会などが主体となり、グラウンドゴルフを行っている。
- ・敷地が狭いので難しいかもしれないが、上丸子小の場合、連合の運動会などのために用具入れを設置してほしいと要望している。地域が使用できる倉庫を設置して頂けると良い。
- ・この地域ではもともと、学校と地域が上手に連携していると思うが、このような考え方で計画して頂ければ、より密な連携が可能になるのでは。
- ・PTA室まで計画して頂いていることは有り難い。地域ギャラリーが廊下状のスペースとなって勿体ない気がする。各室との仕切りをなくし、地域ギャラリーも一体の部屋として使用できると良いのではないか。

⑭配置・ゾーニング計画案について

全体

- ・私の地区の小学校はみな南側校舎であるが、普通は住宅を建てる場合も、北側に建てると思う。
- ・比較という点では、1案が優れていると感じる。

グラウンド

- ・普通教室は日当たりが良い方がよく、グラウンドは長方形である方が使いやすい。
- ・子どもの空間認識能力を養う上でも、グラウンドは校舎に平行である方が良い。
- ・グラウンドは長方形が良い。
- ・多摩川からの北風が強いので、2案のようにグラウンドと広場がつながっているとかなりの風を受けることになるのでは。その点、1案であれば校舎で一度風を受け止めるので、2案より影響は少ないと思う。

防音

- ・音楽ゾーンが普通教室と向かい合っているので、音の問題が気になる。防音等の配慮をして頂きたい。
- ・学校から出る騒音については、地域への配慮を十分にしたい。
- ・1案が総合的には良いと感じるが、グラウンドから発生する音も大きいので、騒音への配慮という点では2案の方が優れているのでは。

教室

- ・西丸子小では、太陽が出ると自動でブラインドが下りるシステムが入っているが、かえって暗くなり電気をつけることもある。教室は明るい方が良い。

自然環境・周辺環境

- ・自然環境的なことも考慮すると、1案の方が良いと感じる。
- ・1案も2案も良く考えられていると思うが、2案はわくわくが2階になっている点また近隣住民への配慮という点では1案の方が良いと思う。
- ・周辺環境への配慮という点からも、普通に考えると1案が良いと感じる。
- ・既存の住宅地にできるということで、地域の方の目を大切にして頂ければと思う。

その他

- ・多目的ホールは斜めの天井となっているが、空間認識能力という点で水平の方が良ければ、必要天井高さを確保して水平の天井とすることも可能である。
- ・歩廊の高さと幅はどの程度か。
→幅は3m以上、高さは2階レベルを想定しているが、グラウンドへの車両動線確保や競技等に支障とならないよう、高さについては部分的に上げることも可能。
→グラウンドが狭くなり、子どもたちにも圧迫感を与えると思うので、不要なのは。
- ・空間認識能力は非常に大切だと聞く。曲がった環境で育った子どもは、社会を見る目も曲がってしまうなど、影響が出てくるのでは。
- ・地域連携諸室と管理諸室が近いのはとても良いと思う。
- ・2案は、わくわくが2階になることで避難の問題があるのでは。
- ・1案はテラスの屋上緑化により景観的な連続性を創出とあるが、なぜ屋上に緑化をしなければならないのか。建物は大丈夫か。お花を植えることもできるのか。
→川崎市の緑化条例（敷地面積の10%以上）による緑化面積を満足するためには、地上部だけでなく、屋上も緑化する必要がある。また屋上緑化をする場合は、樹種にもよるが、一般的に30cm程度の土の深さが必要となり、あらかじめ土の重量を見込んで構造計算・設計を行うため、問題はない。樹種については、緑化面積に算入できるものとできないものがある。基準値を満足した上であれば、部分のお花なども植えることは可能。
- ・現在ある既存の公園と計画されている広場では、どちらの方が大きいのか。
→計画されている広場の方が大きい。

⑮報告書（案）、今後の検討項目について

- ・防災倉庫を大きめにするなどして、地域の倉庫を設置するという内容を入れて頂けると有り難い。
- ・検討項目のその他の欄に、地域連携諸室の計画について、地域の意見を十分に聞き計画に反映するという内容を入れて頂きたい。
- ・同様に、現場の先生や保護者の意見を十分に聞くという内容も加えて頂きたい。

⑯その他

- ・特にこの時期気になるのが換気の問題である。ハード面で特に配慮して頂きたい。
- ・工事期間が長いように感じられるかもしれないが、既存建物の解体期間、現在の建物より更に前に建っていた建物の調査期間も見込んでおり、さらに、周辺の工事も同時に進行していくため、住宅地への配慮として慎重に工事を行っていきたいと考えている。
- ・今回、学校で育てていきたい資質・能力について、具体的な空間やその活用方法までを明確にしていることは、今回の特徴であると思う。
- ・地域や先生の声を十分に聞いていくという事が重要である。地域連携は連携できる形で考えられているので、実際にも利用して頂ければ、狭いながらも非常に良い学校になっていくと思う。
- ・川崎の子どもたちのために、本当に造って良かったと思える学校を造って頂けたらと思う。

(4) 視察の記録

川崎市立御幸小学校

■視察日時

2014年1月28日(火)

■施設概要

建築主 : 川崎市

所在地 : 神奈川県川崎市幸区遠藤町1-1

敷地面積 : 17,389.72 m²

建築面積 : 5,637.66 m²

延床面積 : 9,849.11 m²

構造 : 鉄筋コンクリート造、鉄骨造

階数 : 地上4階

クラス数 : 26クラス(普通学級21クラス、特別支援学級5クラス)(25年5月現在)

児童数 : 715名(25年5月現在)

■計画概要

- ・校舎の耐震化と多様な学習活動への対応のため、改修工事を実施。
鉄骨造による増築部分が、鉄筋コンクリート造の既存建物を南北から挟んで耐震補強。
増築部は、オープンスペースとなり、典型的な片廊下形式であった普通教室に活動の広がりを生み出している。
- ・低、中、高の2学年ずつをまとめ、2つの学年クラスターの間で共通の多目的室・少人数教室・更衣室を設け、多様な学習活動やクラス数の変動に対応。
- ・オープンスペースの先には、図書室を中心にプレゼンテーションルーム、放送室、コンピューター室、郷土資料室、さらに吹き抜けを介して繋がる音楽室も含めて、特別教室群が連携し合い複合化し、魅力的な学習の中心となるメディアセンターを形作る。
- ・特別教室の手前にはオープンなホールやギャラリーをつくり、教科の様々なメディアを展示・掲示し、教科の面白さを演出。

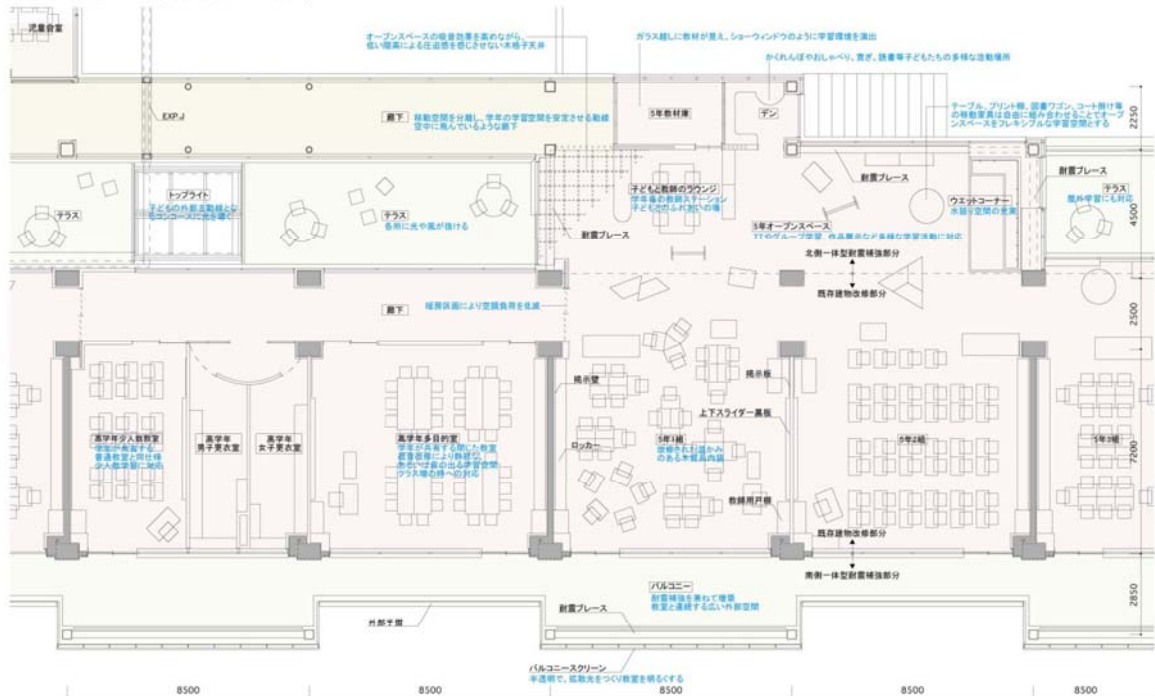
VI 検討体制及び検討記録



増築された廊下、オープンスペースと移動空間を分離し、安定した学年ごとの学習空間を生み出す。



4年生オープンスペースより教室を見る。左手にデン。



1階低学年教室のオープンスペースより教室を見る。低学年はクラスごとにデンがもつけられる。



階段状のお話コーナー。



中・高学年のオープンスペースに設けられた2階のデン。

VI 検討体制及び検討記録

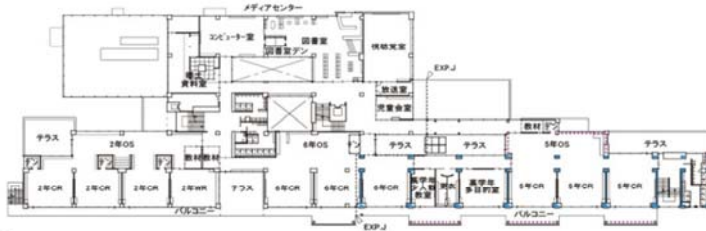
低学年トイレ。



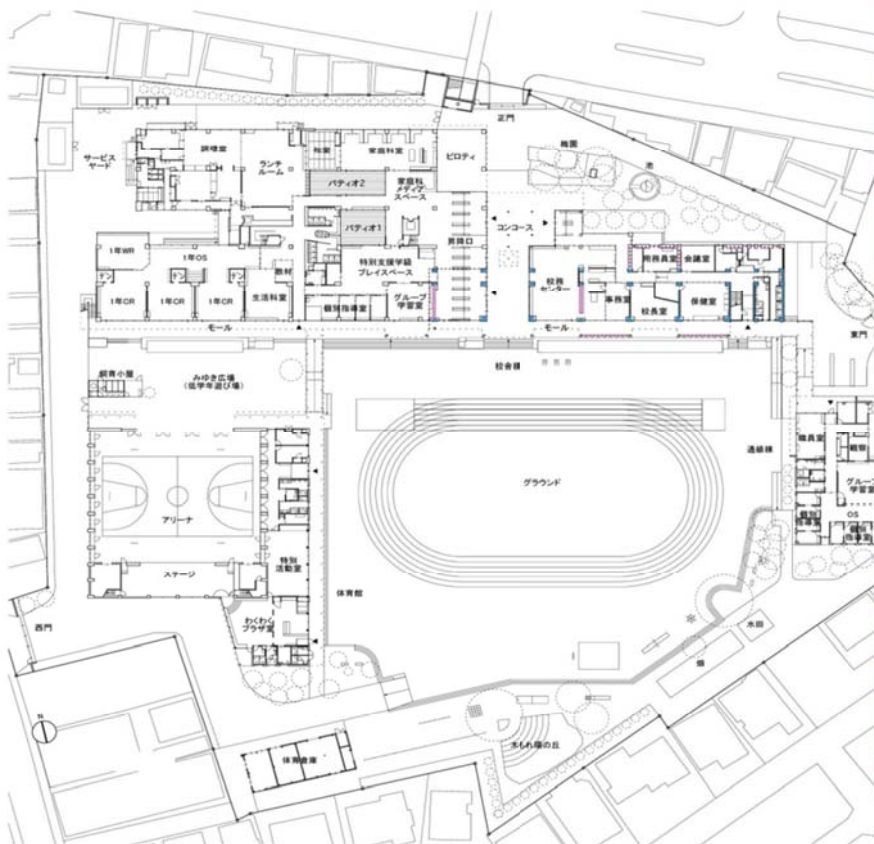
学校の中心に設けられた図書館。右：3階廊下より見る、思い思いの場所で本を読む子供達。



3階平面図



2階平面図

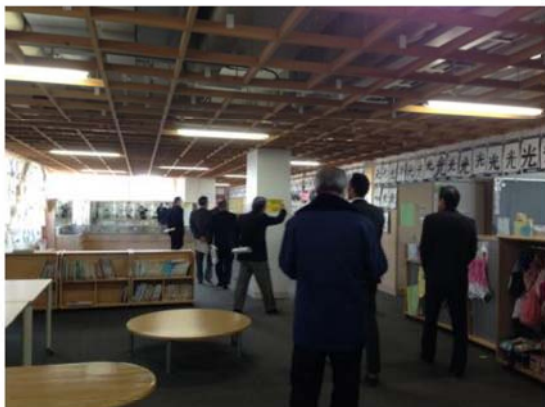


上：新設部2層吹き抜けのテラス越しに体育館を見る。中：校舎の中心に設けられた階段。上下に視線が抜け、校内の活動が垣間見れる。
 下：家庭科室より、和室、ランチルーム、給食調理室を見通す。関連諸室を一体化することで、地域開放も含め多様な使い方に対応。



アリーナ。舞台の奥にも窓が設けられ明るい。

■視察の様子



普通教室（1年生） オープンスペース



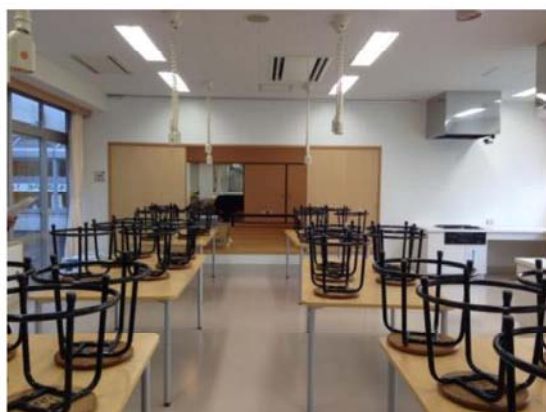
普通教室（3年生） オープンスペース



特別支援学級 プレイスペース



ランチルーム



家庭科室（奥に和室とランチルームを見る）

2. 学習活動に関するヒアリング

(1) ヒアリングの目的

各教科、学年における学習活動の実態を把握するため、教科を担当している総合教育カリキュラムセンターの指導主事に対してヒアリングを行った。

(2) ヒアリングの過程

■第1回

1. 日時：2014年1月9日（木）
2. 内容：普通教室について、メディアセンターについて

■第2回

1. 日時：2014年1月15日（水）
2. 内容：特別教室について

■第3回

1. 日時：2014年1月17日（金）
2. 内容：特別教室について、運動スペースについて

■第4回

1. 日時：2014年3月11日（火）
2. 内容：特別支援教室まわりについて、校務センターまわりについて、保健室まわり、地域連携諸室について

(3) ヒアリングの記録

①普通教室

流し

- ・低学年は観察などがあるので、外にも1つ流しがある方が良い。(教室にも必要)
- ・高学年は教室には不要。

教師コーナー

- ・高学年の教師コーナーも教室にある方が良い。子どもたちのすぐそばに先生がいる方が、子どもたちも安心し、先生と子どもの交流も生まれやすい。教材制作は低学年がメインで、基本的には放課後に行く。オープンスペースに机があればできるので、教材作成コーナーという固定的なスペースは不要。
- ・教師コーナーは、教室内の4隅どこにでも設置ができるようにする必要がある。
- ・カウンターのような固定式ではなく、可動式の机があれば良い。先生専用の収納スペースは必要。
- ・テストの答案用紙などの大切なものは、教師コーナーには置かず、職員室に保管するようにしている。
- ・職員室自体が、職員同士のコミュニケーションを生む空間になると良い。

デン

- ・子どもが騒ぎ出した時、担任が管理職に連絡し、管理職が子どもを相談室などに連れて行き、クールダウンさせることになる。低学年は、普通教室の中に、落ち着かせる場所があると良いと思う。
- ・クールダウンのためだけでなく、学級文庫の閲覧コーナーとしても機能すると良い。
- ・担任が休んだ場合、隣のクラスの先生がオープンスペース側から、2クラスを一斉に指導することもある。その場合、教室とオープンスペースの間にデンなどの空間を遮る場所はない方が良い。

ワークスペース

- ・オープンスペースから直接ワークスペースに入ると、低学年は遊んでしまう(なかなか席につかない)という声もあるが、ワークスペースを窓側にとるプランはどうか。
- 広い空間ではないので、有効に活用されるか微妙である。作品保管スペースとなってしまうのでは。

学年ユニットの考え方

- ・学年でユニットの設えを変えると、学級数の変動による学年の配置変更が難しくなるが、その点はどうか。
- 1クラス8m×8mという大きさは、机のサイズが今より小さい時代に基本となっていたものである。また中高学年は体格が大きいことを考えると、中高学年も低学年同様、教室を広く確保するという考えもある。
- 学年全員が集まれるオープンスペースは、学年集会などの際には、メリットが大きいですが、その頻度は少ない。1クラス分が使用できる広いスペースがあれば、十分かもしれない。

情報コーナー

- ・中学年以上は、休み時間などにも活用できるよう、設置すると望ましい。場所は、オープンスペース内の先生の目の届くところが良い。南百合丘小は、NTTと連携して、実験的に、オープンスペースにタブレットを導入した。

収納スペース・掲示面

- ・オープンタイプの教室とした場合は、収納スペースや掲示面についても問題である。
- ・1年生から、ランドセル・ピアノ・絵具・体育着・水着など、3年生になると、習字セット・リコーダーが加わり、5年生からは裁縫箱が加わる。さらに、冬は防寒着、夏は水筒なども加わるので、多くの収納スペースが必要。
- ・教室内ロッカーを大きくすると、掲示面が減少するという問題もある。
- ・教室内の掲示面を確保した上で、教室内ロッカーに入らないものを、オープンスペース側に収納できると良い。
- ・先日見学に行った学校では、オープンスペース内のベンチが収納できるようになっていた。
- ・鍵盤ハーモニカが収納スペースに納まりきらず、子どもたちの動線上に出っ張り危険なこともある。

②メディアセンター、ICTの活用

メディアセンターの計画・配置

- ・図書室を開放しない前提であれば、PC室との一体配置（1つの空間とする）も可能ではないか。
- 中原図書館があるので一般開放はないかもしれない。中原図書館では子どもたちが遊ばないので、新校の図書室に、子ども図書館としての機能を持たせる話は出ていた。
- ・全国学校図書館協議会で、学校図書館の本の並べ方などの基準が定められている。基準の図書館機能を維持するためにも、PC室とはスペースは分けた方が良い。
- ・1人1台のタブレット端末があれば、固定的なPC室でなくても、図書室の閲覧スペースを使用して授業をすることも可能ではないか。
- ・図書室には、ゆっくりと読書をしたい子どももいるので、PC室と一体だと落ち着かないのではないか。「読むこと」と「調べること」は、空間を分けた方が良い。
- ・本の書架スペースを境に、閲覧スペースとPCスペースを分けたらどうか。両方を使用した2クラス同時の授業も可能。
- ・閲覧スペースには、子どもが寝転んで本を読めるようなスペースがあると良い。
- ・PCなどを使用した調べ学習は、高学年で行うが、図書室を使用した学習は、1年生が多い。メディアセンターは、どの学年からもアクセスしやすい位置にあると良い。
- ・「学校の端にある図書室」という昔のイメージを脱却しなければならない。
- ・和室や郷土資料室が近くにあれば、読み聞かせのスペースとして利用できる。読み聞かせに必要なスペースは、授業で行う場合は最大1クラス分、休み時間にボランティアが行う場合は20名分程度。小上がりになっていて、パーティションでその他の空間と区画できると良い。

ICTの活用

- ・タブレットであれば、1年生も調べ学習にPCを使用するか。
- 1年生がインターネットで調べる必然性は、あまりない。
- ・使う時だけタブレットを持ち出すより、常にPCが置いてある環境の方が、便利かもしれない。
- ・先生たちは、インターネットでの調べ学習は「PC室」、普段の学習で教材提供を行う際は「タブレット」など、必要に応じてICT機種を選択するようになるだろう。

- ・全小学校でPC室に40台のPC（最近の学校ではノートPC）を導入しているが1人1台のPC環境というのが、PC室でしか整わないのが現状である。今後は、可動型収納庫付タブレット端末40台を、各フロアに1セット用意し、様々な場所で、1人1台のPC環境をつくることも検討できるのではないかと。その場合、PC室自体が不要ではないか、という議論もでてくる。
- ・可動型収納庫の管理も問題である。カギ付の倉庫にしまうと、結局、あまり活用されないという可能性もある。
- ・最低でも、同時に40台がインターネットにアクセスできる環境が必要。

メディアコーナー

- ・学年ユニットへ本やPCコーナーを設置するのは良いと思う。
- ・学級文庫としては、学年みんなが使用する辞書や、その時々学習に関連した図書などが考えられる。

郷土資料室

- ・市民ミュージアムの出張所としての利用ができないか。
- ・展示内容としては、小杉地域の歴史や現在までの変遷が分かる資料。
- ・二ヶ領用水や中原街道の歴史を展示しても良い。
- ・社会科では、3年生で昔の暮らし、4年生で二ヶ領用水、5年生で農業・産業、6年生で歴史（日本史）を勉強する。
- ・地域の学校は、お寺から始まり、中原小、上丸子小、西丸子小の順に増えていった。
- ・近隣住民から提供して頂けそうな資料としては、農具・七輪・お釜・行燈・洗濯板・昔の服・草履など。これらを基に、農具、調理器具や照明、衣料品等の発展の様子を展示しても良い。
- ・暗転しスクリーンで映像が見れると良い。

③音楽室

- ・主に4～6年が使用。
- ・専科の先生が教えるのが4年生以上だが、4年以上でも、クラス担任が教えることもある。
- ・鑑賞の授業ではメモ台が必要。
- ・机や椅子についての考えは先生によって異なる。普通教室のような机は邪魔となるが、メモ台付椅子も使用しづらいとの意見もある。基本的には椅子だけがあり、窓台や壁際のカウンターなどで書き物ができると良い。また、椅子を多めに置いておくと発表会等にも利用できる。
- ・琴などの演奏では、広いスペースが必要となるので、机と椅子は邪魔になる。
- ・音楽室は3～6年生が各クラス週2コマ程度使用する。1学年4クラスだとすると、全部で32コマ必要となり、音楽室は1室では足りない。（※専科がいる場合は4～6年生が使用するので24コマ）1、2年生も音の出る授業があることを考慮すると、同じ大きさでなくても良いので、音楽の授業ができるスペースは2室あると良い。
- ・第2音楽室を作るなど、特別教室を充実させる場合は、学校全体で、時間割とセットで活動場所をあらかじめ決めておかなければ、特別教室の稼働率は上がらないと思う。
- ・第2音楽室でなくても、桜小の多目的スペースがあれば音楽の授業もできる。
- ・スピーカーなどの音響機器の充実が必須。
- ・専科の先生であればピアノも上手だが、専科以外の先生が教える場合は、スピーカーで音楽を流すことも多い。

- ・パート練習は楽器庫に余裕スペース（収納スペースの他に+0.5 コマ程度）があれば可能。
- ・いくつも部屋があっても1人の先生が見るには2室が限界。音楽室からガラス窓で楽器庫が見渡せると良い。
- ・グループに分かれての練習や発表の際のグループ数は4~6グループ程度。
(合奏：楽器の数、合唱：ソプラノ・アルト・テノール・バス)
- ・中学では合奏の授業がない。小学校では合奏の授業が多いので、楽器庫は広めに確保する必要がある。
- ・楽器庫からグラウンドへの楽器移動は少ない。運動会で使用する太鼓は体育倉庫に入れておける。
- ・楽器庫から体育館への移動は、発表会などの際にある。1層程度の移動なら階段でも可能だが、それ以上になるとEVが近接していると便利。また、移動経路は段差などをなくしフラットとしてほしい。
- ・ICT環境は特に必要ない。

④家庭科室

- ・主に5、6年が使用。4年生は社会で七輪を使う際に使用。
- ・調理台一体型、調理台分離型どちらにしても、ミシンのスペースの確保が必要。
- ・調理台を窓際（壁際）に設置する場合は、手元の様子が背後から確認できるよう窓際（壁際）に鏡を設置している。
- ・作業台と調理台の配置は、御幸小のように作るスペースと食べるスペースが分かれている方が良い。
- ・ミシンは40台（1台/人）必要。調理器具はホットプレート。
- ・先生によっては、調理前の指導は教室で行い、その後家庭科室に移動することもある。
- ・プロジェクターがあれば、教材や、作業が上手な子どもの手元を、皆に見せたりすることもできる。
- ・プロパンガスを家庭科室に入れば、防災時の炊き出しに利用できる。その場合、家庭科室は1階が良い。（50k ガスボンベ2本程度。給食室は都市ガス。）
- ・作品の収納スペースが大切。エプロンなどのかさ張らないものは、普通教室内の収納における。
- ・準備室は、教材準備的な利用より、教材や作品の収納スペースとしての利用がメイン。
- ・被服と調理があるが、調理の割合は少ない。5年生が「茹でる・炒める」を習い野菜炒めを作るのと、6年生がお米を炊くことを習うので、ご飯とみそ汁を作るのみ。
- ・ランチルームとの一体利用による食育は、本来食育の基本が家族団らんであることから、必ずしも学校で行う必要はないのでは。
- ・食育については、学校で教わった子どもが家に帰って話をするので、子どもだけでなく家庭への普及効果もある。
- ・ランチルームとの連携は音楽室よりも家庭科室の方が良いが、ランチルームを食事をする空間として使用することは殆どない。机の配置上、会議がしやすいので、会議スペースとなることが多い。異学年給食は半々に分かれて教室で行う。
- ・ランチルームで栄養士さんや給食員さんの話を聞いてから、家庭科室で実際に調理・食事をするので食育としての使用も可能。
- ・ランチルームを別に確保するのではなく、例えば、家庭科室を広げて、一部をランチスペースとして使用していると良い。
- ・ランチルームを食育センターとして、家庭科室や給食室と一体的に配置することもできる。

⑤理科室

- ・実験台の仕様、配置はオーソドックスなタイプが良いとのこと。
- ・港南小学校の実験台の配置、仕様はよく考えられている。
- ・多摩第一小学校のガス水道付実験台は使いやすそうである。利用者の声を聞いてみたい。
- ・ICTは必要。実験の様子を演示したり、地層やマグマの動きなどを説明する際に使用。
- ・理科室は1つで良い。
- ・理科の場合は、理科支援の学生がいるので、準備室に居場所の確保が必要。
- ・昆虫・木・水の流れ・太陽の光の観察、栽培、光合成などを勉強するので、外部空間があると良い。
- ・屋外空間はがあると良いが、安全面に配慮が必要。
- ・その他ソーラー電池や電気についても勉強する。
- ・環境学習室は上手に使用しないと、準備室の準備室にならないか。
- ・環境学習室には水槽を置き、多摩川の生き物を飼育すれば、子どもたちは寄ってくると思う。ゲストティーチャーによる特別授業なども実施できる。総合の授業でも、生物にかかわる単元で使用できる。
- ・観察などは学年園（サツマイモ、ヘチマなどを栽培）で行う。学年園の大きさ目安は、1、2年生は1人1鉢。その他の学年は、各学年ごとに長机6個分（約4㎡）程度のスペース。特別支援室は少し大きめが良い。
- ・学年園は、いつも綺麗にできるとは限らないので、敷地外周部でないほうが良い。
- ・学年園は、スペースの関係もあるので、バルコニーで確保できると良い。
- ・ビオトープは西丸子小との共同利用では足が遠のくのではないか。西丸子小のビオトープや多摩川学習での交流を行いながらも、新校にも、小さくてもビオトープを設置できると良い。

⑥図工室

- ・作業台は、工作する力で動かないよう、重たいものが良い。4人用の作業台×10台が使いやすい。
- ・彫刻や木材の掘り方を演示するのにICTを使用する場合があるが、創造性が低下するため、家庭科のように模範的な作品をICTによって見せたりということはない。
- ・家庭科室と同様に、収納スペースが大切。特に図工は、作品を掲示したり陳列するスペースがたくさん必要。作品は、みんなが集まる共用部にも飾れると良い。
- ・例えば制作途中の絵画などは、図工室での授業の場合は準備室に、普通教室での授業の場合は、専用の収納ラックを教室前のオープンスペースに持ってきて置いておく。
- ・図工の展示は、貼ったり置いたりするだけでなく、天井から吊るせるようにするなど、角度を変えて眺められたり、ゆれる作品を楽しめたりするように工夫が必要。
- ・準備室は、家庭科室と同様に、教材準備的な利用より、教材や作品の収納スペースとしての利用がメイン
- ・テラスがあると便利。
- ・屋外空間は、低学年の造形遊びなどで、土粘土を使用する場合に使用できる。また、水を使用する作業もあるので、水道があると便利。
- ・屋外空間が作品の乾燥にも利用できるが、濡れてしまうこともあるので、換気ができていれば屋内でも良い。

⑦生活科室

- ・生活科室で授業を行うことができれば、制作途中のものを置いたままに出来るので便利。昔遊びなどに使用する道具を置いておけたり、異学年の交流の場としても使用できる。可動式の雛壇などがあれば、更に活用の幅が広がる。
- ・生活科で自分の成長の記録を調べたり、2年生が地域探検して地域のMAPを作ったりする。
- ・十分な掲示スペースが必要。地域探検のMAPは1クラスあたり模造紙4枚分くらいあるが、このような大きいものは一時的なので、窓側に掲示している。
- ・発表などで使用できるステージがあると便利。ステージは、幼少連携や昔遊びの初めに、レセプション的に使用する際にも活用できる。ただし、広い空間を使いたい時もあるので、可動式のものが良い。
- ・調理器具は不要。
- ・コンロやホットプレートを使用する調理にはあまり使用しない。洗う程度。
- ・音楽利用を想定した視聴覚設備までは不要。
- ・分割利用の頻度はあまりない。
- ・準備室は不要。生活科室内に収納スペースがあれば良い。
- ・水を使用するので、清掃が容易なビニルシートやフローリングが望ましい。
- ・落ち葉を拾ってきて秋を表現したり、工作等で水を使用するため、広いスペースの確保と掃除のしやすさが重要。
- ・低学年は工作も床でするので、大きな作業台は不要。
- ・低学年の音楽を生活科室（防音仕様とする必要あり）で行う場合は、鍵盤ハーモニカができる机が必要。机は収納可能なもので、長机でも良い。

⑧外国語学習室

- ・5～6年生が使用する。いずれ3年生から対象となるが、特別教室を使用するか不明。
- ・現状の学習内容は会話（コミュニケーション）がメイン。コミュニケーションは室内を歩き回り、1対1で会話をしていくなど、ゲーム感覚のものが多い。前に出での発表もある。
- ・書く学習より、ゲーム感覚で会話（コミュニケーション）の方が多。
- ・現状文字指導はないので、特に外国語学習室に辞書などを置いてはいない。（ローマ字指導は3年生で実施。）
- ・2年後に教科化されるため、指導内容が変わることもある。
- ・外国語の授業は普通教室でも可能なので、積極的に使用を促さなければ、使用しなくなる可能性もある。
- ・とにかく大きなスペースが必要。普通教室の1.5倍程度。
- ・広い教室であれば、椅子を並べたスペースと何も置かないオープンスペース、2つのスペースを確保し両方にホワイトボードが設置できると良い。
- ・普通教室のような机、椅子があれば良い。
- ・机は不要。メモ台付の椅子があれば十分。
- ・掲示スペースはあまり必要ないが、国の写真などの教材があるので、ラミネートして保管できる場所があると良い。
- ・デジタル教科書の使用も想定され、画像教材もかなり活用するので、ICTはかなり使用する。
- ・パソコンで写真を写したり、音を発音させたりと、ICTはかなり活用する。
- ・ALTの居場所としての整備も必要。ALTも他の先生との交流ができるよう、職員室に座ってお茶が飲めるスペースなどがあると良い。
- ・準備室は不要。
- ・海外の小学校のようにカラフルで、異文化を感じるような空間だと良い。

⑨ICT

- ・整備の優先順位としては、高い順より、理科室、外国語活動室、家庭科室、図工室。生活科室と音楽室は不要。
- ・市内では、普通教室内に50インチのTVを導入している。置型TVは、設置スペースが必要となる点が難点である。御幸小のような天井に固定するタイプは、スペースが無駄にならないが、必要に応じて移動できる方が良いという声もある。
- ・電子黒板にも様々な種類があり、黒板の一部にスクリーンを設置し、プロジェクターを投影する方法もある。また、黒板とは別にTVやスクリーンがある方が便利という声もある。

⑩特別支援教室まわり

- ・近隣小学校の児童数は、現在、西丸子小が3名、上丸子小が5名である。御幸小は15名。普通教室24学級に対し24名の学校や、18学級に対し3名の学校などそれぞれ。児童数の上限などはないが、1つの症状で8人までとなっている。
- ・他者との関わりが重要なので、一般児童や教師の動線上に配置されていると良い。EVがあれば2Fでも良い。
- ・災害時の事を考えると1Fが良いのではないか。
- ・大きめの倉庫が必要。
- ・扉は上吊りのものとし、床面にレールが出ないようにするなど、床はフラットであることが求められる。

- ・着替えの指導を行うので、着替えスペースが必要。
- ・シャワー、トイレは車椅子のまま入れるものが良い。
- ・ロッカーは扉付で、洋服の片づけも指導するため、ハンガーがかけられるものが良い。
- ・洗面台の蛇口の高さは低・中・高の3種類必要。
- ・黒板は不要。ホワイトボードと掲示スペースを設置。
- ・冷蔵庫が必要。ミニキッチンがあれば良いが、なければ、流し台とコンロがあれば良い。
- ・流し台はグループ学習室にあれば良い。
- ・先生は子どもの近くにいるので、教師ブースの様なまとまったスペースより、各学習室に教師卓を設置する方が良い。
- ・ICTの整備は必須。パソコンを活用する。
- ・プレイスペースの天井にはブランコなどを吊れるようにしてほしい。
- ・個別学習室の間の壁は、必要に応じて1室でも使えるよう、可動間仕切りにすると良い。
- ・普通学級の生活科の授業とは別の「生活単元学習」という学習を行う。食事のためのお皿を用意したり、植物を育てたりする。畑や花壇などがあると良い。
- ・湯沸かし器が必要。何用の湯沸かし器かは確認する。

⑪校務センターまわり

- ・職員室はグラウンドを見渡せること。
- ・来客のインターフォンは職員室につながるの、職員室で対応後、スムーズに校長室へ招く事のできる来客動線を確保する。
- ・業者は事務センターで対応する。
- ・教材作成コーナーは印刷室を広めに作れば、その中で作業はできる。
- ・事務センターと印刷室は近い方が良い。
- ・更衣室と休憩室は一緒に配置する。
- ・教職員数が増加した場合に対応できるよう、フレキシブルな計画とする必要あり。

⑫保健室まわり

- ・保健ギャラリーはスペースとして確保できなくても、保健室前に掲示スペースや体に関する本の置き場などが確保できていれば良い。
- ・器具庫などは特に必要ない。身長・体重計などは休み時間に子どもたちが来て使う事もあるので出し放しにしている。
- ・救急車は、他の子どもたちの心理的な影響に配慮して、目の届かないところに停車するようにしている。
- ・相談室は、子どもと親の両方に使用する。不登校の子どもは相談室に登校してくることもある。
- ・相談室のうち少なくとも1室は、出入りを見られないように配慮する必要がある。
- ・保健室ではシャワーなどを使うので、特別支援学級の水回りを一緒に使えると良い。
- ・スクールカウンセラーは常駐せず、要請があった時だけ来る。居場所は必要ない。
- ・児童数が850人を超えないと、養護教諭は2人にならない。

⑬地域連携諸室

- ・地域連携諸室は、学校と独立した運用が可能となるよう、わくわくプラザなどと一体に地域ゾーンとして配置すると良い。
- ・特別活動室は、地域の集会や学習・文化活動の他、委員会などで利用する。

⑭グラウンド

- ・体育以外でも、影おくりや太陽の動きを観察する学習等でも使用できる。
- ・多少分割して確保した方が、場所によって活動の内容を制限でき安全。
- ・屋上グラウンドはとても良い。ピロティも良いが、陽があたるスペースが重要。
- ・地上グラウンドのスペースが足りなければ、1年生のとび遊びのスペースは屋上やピロティにあっても良い。
- ・多目的スペースに遊具を置くと、怪我がおこりやすい。前庭や屋上にあった方が良い。
- ・特別支援学級用に、内部の天井にパイプを設置してブランコを出来ると良い。
また、クライミングウォールも設置できると良い。特別支援学級だけでなく普通学級の子も使える場所にあると、交流ができて良い。
- ・5年生以上が田んぼを使う。スペースがなければバケツ稲となる。
- ・動物アレルギーの子どもや、鳥インフルエンザの問題もあるため飼育小屋は不要。
- ・校舎内に水槽を置いて生き物を飼ったり、テラスに樹木があれば虫も飛んでくるので、生き物との触れ合いは飼育小屋でなくても出来る。
- ・ビオトープは体育の授業では使用しないが、休み時間には使用すると思う。
- ・遊具はスペースが足りなければコンビネーションとしても良い。
- ・鉄棒は高中低の3連が3セット必要。
- ・ネット等がついた複雑な遊具は壊れ易いので、普通のもので良い。
- ・ブランコは遊べる子と遊べない子がいるのでなくても良い。

⑮アリーナ

- ・開放用に、開放用倉庫・更衣室があると良い。また、中2階などのスペースがあると、地域開放で使用した卓球台などを片付けずに置いたままにできる。
- ・ランニングスペースはなくても良い。
- ・体育倉庫の扉はとにかく大きくしてほしい。エバーマット（跳び箱や高飛びで使用する）等の大きな物を収納する。
- ・ピアノは、競技床にあると振動で狂ってしまう。普段はステージ上にあり、卒業式等の際に競技床に下ろして来れると良い。
- ・ステージの下には椅子を収納する。